

# コリンズC・C工事の

## 目途はたっていない。

助役 工事予定の報告はないのでいつから始まるかは未定。

社会教育課長 今のところ遺跡発掘予定はない。

建設課長 まだ賃貸契約をしていない。

企画課長 六九八万二千円である。

町長 計画変更の申請があった段階で検討する

九ホールに縮小する計画変更があると聞

# コリンズに町道1-12

# 号線工事費を負担させ

# のは適法ですか？

町長 町道1-12号線改良工事費のコリンズ

の全額負担は開発協力金によるのか

因者負担か、寄付金か。

建設課長 道路法58条による原因者負担金で

ある。平成3・4年度の継続事業である。

町長 広辞苑ではたかりというのは脅して金品

を巻き上げることという。町はそんな事

はしていない。たかりというのを撤回し

てほしい。このことについては住民が町

長を被告に裁判をしている。違法に4億

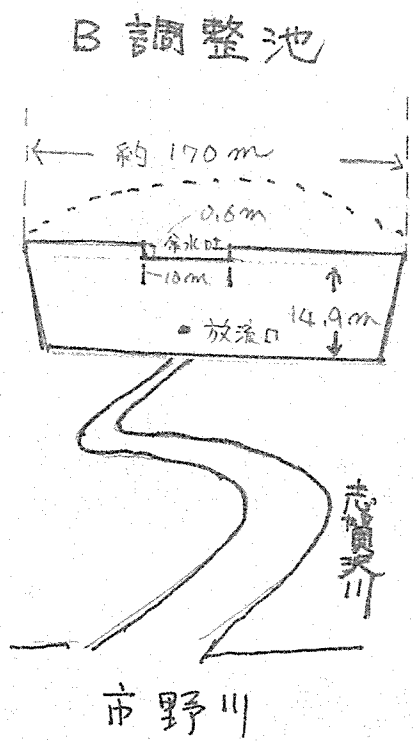
8千万円を支出したので町長が町に返還

せよという裁判であるから、裁判で争う。

たかりだと思っているので撤回しない。

たまには町政に期待できる答弁が返ってきます。

## 一般質問



## 投稿 コリンズ調整池は災害のもと

弥永健一

安全装置が、ときには災害のもとになります。期待通りに作動しない場合。また、安全装置があるからと、安心して危険なものを作らせてしまうこともあります。調整池(ダム)はゴルフ場にとって安全装置です。山を開発すれば、保水力が落ちるので、降れば大水、照れば水不足になります。ダムでみずを調整しようというわけです。

「ゴルフ場の調整池は百年確率の雨を考えて作るから安全ですよ。」ともいわれます。

でもゴルフ場の調整池があふれて大水が出た例があります。コリンズC・Cの場合はどうなのか、調整池の設計計算書をしらべました。コリンズの調整池はAからGまで七基。

調整池の要領等は、集水域の面積などによって計算されます。嵐山ドライブインの奥に予定されるB調整池が最大で、3万2千トンです。平沢大沼の上のC調整池、平沢白山神社の奥のE調整池、遠山のG調整池も大きいものです。B、C、Gの堤体は高さ14.9メートル(15メートル以上になると正規のダムになり、安全基準がむずかしくなる。)

調整池Bの堤体の大きさは170メートル強です。堤体の下部には、常時放出口があり、この大きさは下流水路があふれないように計算されています。B、C等の常時放出口は比較的小さく、E、G等はかなり大きくなっています。

これらのことからいろいろ計算できます。A、B、C D調整池は1日雨量が271.8ミリを越えるとあふれるなど。あふれた水は、堤体上部余水吐から滝のように流れ落ちます。B調整池の余水吐は長さ10メートル、深さ0.6メートルです。B調整池があふれているとき1年確率以下の降雨強度でも、下流で溢水被害が出ることもわかりました。「百年確率でも安全」というのは、調整池がこわれにくいという意味で、下流に災害が起きない事ではないこともわかりました。過去十年間に降った雨の降雨強度で、コリンズC・Cの調整池で被害があるかどうかを計算してみると、Bについては二回、Cは四回あふれることもわかりました。この点、前号の議会報告の記事だけでは誤解を招くおそれがあります。なお、環境アセスメントのなかで、専門家が検討したのはAからGまでの調整池のうち、E調整池だけだったことも付け加えておきます。